



【我らのため、イエスキリストの十字架】

今日の聖書本文:イザヤ書53章4-6節/ 暗唱聖句:第一コリント1章18節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

おはようございます。シャローム！コロナウイルスの影響が続いている中、また一週間もキリストイエスにあってみなさんの心も体も守られましたか。昨日タベ小牧市役所のホームページにより、パワーズ店の近くの浅野外科内科病院で先週月曜日に病院で受診された患者の方が金曜日になって保健所から検査の結果コロナ陽性反応が出た内容が発表されました。小牧市に住んでいる住民ではなかったみたいですが、身近に大分差し迫って来ているでしょう。できれば感染者が小牧市には出ないように願っていましたが、いずれ小牧にも感染者が出てくるのは避けられないかも知れませんが、さらにみなさん注意して行きましょう。教会もまた映像礼拝など準備して、礼拝に来れない方々や場合にも、家で家族と共に礼拝を守ることが出来るようにさらに準備し対応して行きたいと願っております。何よりも、徐々に日本中コロナウイルスが広がっているこの時期今週から小中高の新学期も始まります。どうか我らの子供たちの学校での集団での生き返りと新学期の生活が安全に守られますように、こんな状況の中でも新学期の学校生活が祝福されますように共に祈って下さい。

今週から我々は主イエスキリストの受難週間を過ごす事になります。我々がイエスキリストを正しく信じ、正しくキリストとの関係を保て生きるためには、特に、イエスキリストの受難と十字架の意味を正しく知り、信じなければなりません。我らの救い主イエスキリストご自身のあやまちや罪があったためなく、神の前で罪人たちである我々の罪の御代わりになり、我々のすべての罪を背負い、罪の代価を支払って下さったからです。ですからイエスキリストのこの苦難と十字架は今日私たち一人一人と関係があるとても大切な出来事であります！

第一ペテロの手紙2章22、24節では、「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」

実に新約聖書を読んで見ますと、特に福音書と言われるマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書ではイエスキリストの生涯の中で十字架につけられるまでの最後の一週間の出来事を集中的に記録して下さっています。これを量的に比較して見ると、マタイとルカの福音書が 1/4 を、マルコの福音書では 1/3 を、ヨハネの福音書では 1/2 の記録が、イエス様の最後の一週間に起こった出来事が書かれているというのは、神の御子であるイエスキリストが何のために、何のコールを持っておられこの地に人間の姿を持って来られたのかがよく分かって来ます。つまり、十字架につけられるためではないでしょうか。

我々がイエスキリストを正しく信じ、正しく知るためにはイエスキリストの受難と十字架の意味を正しく知り、信じなければなりません。イエスキリストがお生まれになる前の約700年前の旧約の預言者だったイザヤを通して来られるメシヤ人類の救い主なるイエスキリストについて預言された内容が今日の本文の御言葉です。イザヤ書53章5節には「しかし、彼は私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕(くだ)かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちは癒された。」

使徒パウロは第一コリント人への手紙1章18節で「十字架のことは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。」と宣言しています。今日も、イエス様の十字架に対して人々に二つの部類があると言っています。一つの部類は十字架が「愚かなもの」そして、もう一つの部類は十字架が「神の力」だと信じていました。

イエスキリストの十字架が、信じられず、断りつつ滅びに至る人々にはただ愚かな出来事でしか見えないけど、イエス様を信じ、従う人々には、神の偉大な救いの力になるのだと教えて下さっています。

イエスキリストの十字架は、ただ宗教的な象徴やシンバルとか、飾るアクセサリーのようなものでは決してありません。十字架の御力を知り体験しなければ、いくら長く教会に通っていても、イエスキリストを正しく信じる人にはなれず、宗教活動でとどまってしまう可能性が高いでしょう。イエス様の十字架の御力を知ることは、イエス様が十字架に付けられたその目的と理由ともなりからです。イエスキリストを正しく信じる者になるためには、イエスキリストの十字架の御力ってどのような力であるか知り、体験して行かなければなりません。イエスキリストの十字架の御力が直接我らと関係あり、我らの為の神の御力であるからです。

今週から始まるイエスキリストの受難週を通して、もう一度改めて主イエスキリストの十字架の御力を深くしり、体験する時となりますようにお祈り申し上げます。

【我らのため、イエスキリストの十字架の御力？】

①我らのため、神様からの唯一の罪赦しと救いの御力

マタイの福音書26章26節—30節を見ると、イエスキリストが十字架を背負われる前日最後の弟子たちと一緒に過ごし、最後の晩餐をされる場面が書かれているでしょう。その時、イエス様は私たちのために過ぎ越しの祭りの子羊として、ご自分の肉と血を捧げると言われました。イエス様はパンをさいて弟子たちに与えながら、ご自分の体を、そして杯を回しながら、ご自分の血だと言われました。そして、これは罪を赦すために、多くの人のために流される神からの契約の血だと言われました。

イエスキリストは我々の罪を赦すために、十字架につけられ、死なれる事をすでにご存知で、それを弟子たちにも事前に教えて下さった大切な内容であります。実はこれが、全体の聖書の福音の核心なのです。

聖書によると、「罪からの結果は死」です(ローマ人への手紙6章23節)。「義人はいない。一人もない。(ローマ人への手紙3章10節)、「すべての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず(ローマ人への手紙3章23節)」

詩篇51篇5節でダビデ王は、「私は咎める者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。」と告白しています。

ダビデは母の胎内にいた時から、自分が罪人である事を認め告白しています。どういう意味ですか。人は全てお母さんの胎内から罪人だったという意味なのです。つまり、罪を犯したので、罪人になるのではなく、罪人だから、罪を犯すということなのです。マルコの福音書7章21節-23節にイエスキリストは人間の罪深さについてこのようにおっしゃっています。「内側から、すなわち、人の心から出てくるものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色(こうしょく)、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」

使徒パウロは罪に対して人間の弱さと限界性を深く感じながら、自分にある罪深さについてこのように告白してあります。「私は、自分でしたいと思う善を行わないで、かえってしたくない悪を行っています。もし、私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行っているのは、もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。(ローマ人への手紙7章19、20節)」
* 罪(原語: アノミヤ(anomia): 意味(的からの外れと意味) = 無法者 = 自分が法 = 自分が神かのように(人生が自分の手にあるかのように、自分の力で何でも出来るかのように、自分がいつも正しいかのように!)

罪人である我々は何でも自分のものにしたくて盗んだり、貪欲します。自分が一番大切にしたいからねたみをもったり、嘘ついたり、憎みます。自分の偉さ、正しさを見せたくて比べたり、高ぶり、不平、悪口も出す傾向があります。歳をとればとるほど、罪から離れるより、かえて罪に鈍感になり、自己合理化、自己正当化しながら、あきらめず、繰り返し続ける自分を見ることができるよう。人間の行動だけではなく、心の奥からの神を背いて、無視、無関心、拒絶しながら勝手さ、偽善、淫(みだ)らさ、その狡猾(こうかつ)さ、その残忍さなど今は神を離れた人間の罪がどこまで至るのかわかりません。だれも人の力で罪の鎖から解放される事も、自由になれる事も、赦される事も出来ません。神様の目ですべての人間は彼らの罪の結果により、神の裁きと永遠の滅びを受けて当然なのです。イエスキリストが処刑される前までは、すべての人が自分の罪の結果、神様の裁きの対象でした！最後の一人まで神様の処刑の対象でした。この世には数十万、数億の死の十字架がかかげなければなりませんでした。

ところが、神様は愛するひとり子にすべての罪を全部負わせ、人間にあたるべき怒りのさばきを受けさせました！神様であられるイエスキリストは、ご自身で造られたすべての命、人生を代表として、我々罪人のためのかわりに犠牲のいけにえとなってくださいました。その十字架によって、神様と和解させ、神様の恵みを受ける救いの道が開かれました。神様はわざとイエスキリストの受難と十字架の死の全過程を、公に見せながら、すべて公開しておられたのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！なぜ我々が十字架のイエスキリストを信じ、罪を認め、告白することによって、自分の罪が赦され、救われるのでしょうか。どうしてそれが可能になったのですか。聖書ははっきりと続けて強調しながら、イエスキリストご自身が十字架で死なれたのは、全人類の罪人たちの全ての罪の代価を完全に支払い済み、完了させて下さった神の御業と神としての宣言があったからだと言明して下さっています。「すべてのことが完了した。(It is finished)(ヨハネの福音書19:30)」

「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。(ローマ人への手紙4章25節)」
「肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰(しょばつ)されたのです。(ローマ人への手紙8章3節)」

今日の本文イザヤ書53章5節には、明確にこう書いてあります。「しかし、彼は私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕(くだ)かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちは癒された。」
エペソ人への手紙1章7節では「私たちはこの御子のうちにあつて、御子の血による贖い、すなわち罪のゆるしを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。」

公義と正義なる神様にとっても、どうしてもできないことが一つあります！それが罪なのです。我々が罪を犯すことだけは公義と正義の神様は、罪に対して罪と言うべきであり、その罪の代価を問われるのは当然ではありませんか。しかし、同時に哀れみ深く愛なる神様は、罪の中で永遠に滅ぼされるべき人類を愛され、御子イエスキリストを通して我々の罪を解決させる方法を定めたのです。それが、まさにイエスキリストの十字架の上での贖いの死でした。イエスキリストが十字架に高くかけられたのは、もはや我々に神の御怒りはくだらないという宣言です。高くかけられたイエスを通して、神様は我々にこう語ります。「わたしはこれ以上あなたたちに怒りをくださない。この一回の処刑によってあなたを赦すことができた。」
ですから、イエスキリストの十字架には我らのために、全ての人のため、神様の愛と罪赦しと救いのメッセージが含まれているのです。なぜなら、イエスの十字架の罪赦しと救いを信じる者に対して、神様の裁きはもはや永遠に！完全に！終わったからです。
ですから、昔も、今も、これからの全ての罪人である人々たちにだれでも関係なく、この十字架のイエスキリストが私の罪をも赦すために十字架に付けられた事を心から受け入れ信じれば、自分の全ての罪をも赦され、救われる道が開かれているのではないのでしょうか。

神の前でただ自分の罪を気づかないか、まったくないかのよううそをついているわけだと聖書は指摘して下さっています。そしてだれでもその十字架のイエスキリストを受け入れ、その救い主に罪を認め、言い表す事により、罪赦され、救われる事を神様は約束されました。第一ヨハネの手紙1章7節後半～10節に、「私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。8 もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。9 もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。10もし、罪

を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。」

ところが、愛するみなさん、神の御子イエスキリストの十字架の贖いの御業により、人類の全ての人々に罪が赦され、救われる道が与えられたのにも関わらず、サタンは昔も今も私たちに絶えず主の十字架は何の効力もなく、罪責感に苦しませ感じさせようとします。たえず、過去の罪に縛られ、問題をあばきます。‘きみ、本当にすべてが赦されたと思うのか。とんでもない！一生涯その罪からははなれませんよ！’、‘きみのような偽善者が教会に行き事なんで、きみのような者が神様を信じることなんで、それはおかしいんじゃないの、君にそんな資格があると思うの’、‘神はね、君のように恩も知らず、繰り返しまた罪を犯す君を絶対許せないと思う。そう思わない！あんたのような人が教会で奉仕をするな’、私たちの一番弱い部分に誘惑し、暴(あば)かします。でもその時こそ、もっとしっかりイエス様を信じる者には、もうイエスキリストの十字架の血しおによって、私の罪は許され、きよめられた信仰と確信に頼ります。罪の解決と赦しは、私たちのかけた行いによって得たものではないから大丈夫です。もうすでにイエスキリストがこんな私の為に、十字架でなされて下さったんだから！我々がどうするかによって、十字架の救いと恵みが変わることはまったくありません！

イエス様はもうそれを十字架の上で宣言してくださいました。「すべてのことが完了した(テレスタイ！:罪の代価のすべてはもう支払い済みにした！)(ヨハネ19:28, 30)。」と宣言しました。あなたの罪の問題、その赦しのすべてのことを成し遂げて下さったことを忘れないでください。この意味は人類の救いのためすべてを成し遂げた！だから救われるためほかにいらぬし、ありません！という神の宣布でした！イエス様の十字架による罪の赦しと救いの恵みが現在、今も十字架のイエス様を信じる我らに、全ての人たちにも通用されるという意味なのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！もう一度イエス様がかかげられた十字架を見上げて見ましょう。そして自分の罪に対してこれ以上悩まないで、恐れなくてください。もうイエスキリストにすべてを明け渡してください。主の十字架の前にすべての罪をおろしてください。イエスキリストの御前で癒されない苦しみはありません！もう赦されない罪もありません！この世で一番難しい問題はどうやって自分の罪の問題が解決され救われるのかのことでした。しかし、イエスキリストが十字架につけられた以上、我々に解決されない難題はないことを信じてください。イエス様は“極めてひどい苦しみの十字架のあがないのみわざ”を通して十字架のイエス様を受け入れる者たちには誰もが救われる恵みを与えてくださいました。(ヨハネの福音書3章16節：神は実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちをもつためである。アーメン！)自分の罪が赦され、救われるためには学歴もお金も見た目も家門も過去がどうであれイエスキリストの御前では関係ありません。神が我々を救うために備えて下さった十字架のイエス様の罪赦しの恵みと哀れみを、心から受け入れる者はみな、例外なく、赦され、救われる！これがまさにキリスト教の一番核心的な教えであり、イエスキリストが十字架にかかれた理由であります。

ペテロの手紙第一2章22、24節を読んでいただきませんか。「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。”、“主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。」

② イエスキリストの十字架の力は我らのため、罪を悟らせる力です！

イエスキリストの十字架の力それは何か、今日この一つを覚えておきましょう。イエスキリストの十字架の力を知っている人は自分がどれだけ罪人であるのかがわかります。愛する信仰の家族のみなさん！イエス様はなぜ、どうして十字架で死なれましたか。私たちの罪のためでした。生まれ変わったクリスチャンは十字架を通して自分の罪深さを見ることが出来ます。これを悟ることがどれだけ大きい十字架の力なのかわかりません。実際に主の十字架を通してイエス様に会っていない人は自分の罪深さを気づく事も、見る事もできません。多くのクリスチャンの中自分が‘罪人’であることを告白していますが、自分が生きておられる全能の神前で本当に罪人なのか、どれだけひどい罪人なのかわかっていない人はそんなに多くないと思います。みなさんがもし、我々も自分の罪を気づかない時には、罪を犯している人に対してどれほどひどく怒ったり、批判したかも知れません。

ルカの福音書5章8節で、イエス様のお言葉にしたがってたくさんの魚をとったペテロは、喜んでおどったのではなく、むしろイエス様にひざまずいて自分が罪人だと告白しました。「主よ。私のようなものから離れてください。私は、罪深い人間ですから。」どうしてこのようなことが起きるのでしょうか。彼が突然もっと罪を犯したからですか。イエス様を通して神の恵みを経験した瞬間、霊の目が開かれ、イエス様がどんなお方であるのか、そして、神の前で自分はどれほどの罪人であるか、本当の自分を悟ったからです。

イエス様を十字架につけた人々は自分がどれだけひどい罪をおかしているのか分かりませんでした。そのため、イエス様は十字架の上でこう祈られました。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。(ルカの福音書23:34)」使徒の働きを読んで見ますと、イエス様が復活された後、五旬節を迎えた弟子たちはイエス様が約束された聖霊を受けました。聖霊に満たされたペテロはイエス様を十字架につけた人々に向かって次のように叫びました。

「神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。(使徒の働き2:36)」

その瞬間、ユダヤ人たちは痛烈(つうれつ)な罪意識が生じ、自分たちが犯した罪を悟り、「わたしたちはどうしたら、よいでしょうか(使徒の働き2:37)」と泣きながらペテロの前に出て、悔い改めイエス様を受け入れた者が3千人ほどであったと記されています。十字架のイエス様に出会う時、自分の罪が悟られ、さらなる恵みの瞬間を迎えたのです。

愛する信仰の家族のみなさん! 自分の罪を悟る時こそ、霊的いのちの始まりです。これがまさに我らのためのイエスキリストの十字架の御力です! 自分がどんなに罪人であるかを悟られた時、ようやくイエスキリストの罪からの赦しと救いを受け、これがまさに生まれ変わる人生の始まりとなるのです。

世界の大きな神のリバイバルの御力はイエスキリストの十字架の力により、自分の罪を悟らせ、認め、告白し、悔い改めた事から始まりました! 今コロナウイルスによって、世界が苦しんでいる中、イエスキリストの十字架を見上げ、今までの自分をよく振り返って、悔い改めに進むべき時ではありませんか。今週我々の罪を赦すために多くの苦難と十字架の御苦しみを受けられた主イエスキリストの恵みを覚え、感謝し、礼拝する週間であります。特別早天祈り会がある一週間、共に御言葉と祈りを持って経験に主と共に過ごす事ができるように祈ります。40日間、教会家族で、一日一食だけでも断食しながら、祈り続けています。特にイエスキリストが十字架につけられた聖金曜日には一食でも、一日でも断食しながら、祈る時を持ってもらいたいですか。

<実践:十字架の御力により、罪赦しを経験した人は、他の人たちをも裁きません。>

愛する信仰の家族のみなさん! 主イエス様の十字架の力は罪を悟らせる力だと申しました。

すると、私たちが罪を悟っているのか、そうでないのかをどうやってわかるのでしょうか。それは私たちがほかの人に接する態度からわかることが出来ます。つまり、自分の罪深さを悟った人はほかの人をさばきません。いや、さばくことができません。なぜなら、罪人が罪人を裁くことができないからです。

イエス様は姦淫した女を捕まえてきて石打をしようとしている人々に“あなたがたのなかで罪のないものがさきに石をなげなさい”と言われました。しかし、だれもその女に石を投げることはできませんでした。事実彼らも石打ちされるべき罪人だったからです。ですから主の十字架の罪赦しの恵みを経験した人は決して自分を義人だと思いません! ですから、なおさらほかの人をさばく資格が自分にはないこともよく知っています。主の十字架の前で自分の罪がどれだけ大きいのかよく知っているからです。

愛する信仰の家族のみなさん! たまに他のクリスチャンの方々とは出会う時、意外と私のような人々たちがよくいることに気がきます。教養と品位のある、そして聖書の多くの知識と信仰生活に熱心な方の中で、罪人のような人を見るとまるで、上から目線でむしをみているように冷たいです。顔をしかめて、近づこうともせず、話しをかけようともしません。そうしながら、心でさばきます。自分の偽りと偽善はもっていながら他人の偽りをみるともっと怒ります。自己中心で、自分勝てなのに、そのような人を見るともっと敏感にありさばこうとする傾向があります。しかし、我々の主の目では我々みんな同じ罪人にすぎません。むしろ、自分自身がもっと罪人であることを教えます。私たちが十字架の力で生まれ変われば一番先にこれを悟ります。そして、これを悟ってからようやく十字架を知る人になります。そういうわけで、他人に対して言う言葉がなくなるのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!私たちはイエス様の十字架の力は他人ではなく、自分の罪を悟らせる力であることを教えられました。そして、その十字架の主の御前で自分の罪を日々悟らされる人は決して他の人に対してむやみに判断しないことも学ばされました。

③イエス様の十字架は我らのため、神様の恵みと愛を悟らせる力です。

しかし、みなさん! もし十字架が私たちの罪を悟らせる事にとどまってしまうとどうなるでしょうか。

我々は耐え難くなると思います。なぜなら、我々はあまりにもたくさんの罪の故に恥ずかしいからです。しかし、イエス様の十字架の力は我々の罪をクリアに悟らせてくださると同時にあれだけ罪深い我々をどれだけ愛してくださるのかを悟らせます。我々の罪は‘自分’が犯したのに、神様は十字架によってその罪の代価をひとり子イエス様に負わせました。我々罪人に向かっているこの神様の愛と恵みが信じられることも十字架の力なのです。

クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!私たちは‘恵み’という言葉をよく使います。恵みとはなんですか。恵み(Grace)には必ず二つの内容が含まれています。一つ目は、‘受ける資格がまったくない’ことで、もう一つは‘無条件的に上から流されあふれるばかりの愛’これはつまり、‘受ける資格がまったくない人に一方的に無条件的に上から流され満ち溢れる愛’これがまさに恵みと言うことです。

聖書は我々がどんな神様の恵みを受けたかを教えています。今日の本文イザヤ書53章4-6節では 我々の自分の罪をイエス様が身代わりにされた恵みを教えています。「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向って行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。」

ローマ人への手紙5章6-8節の御言葉は、罪人である私のために、キリストが十字架にかかってくださった恵みを語っています。「私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。正しい人のためにでも、死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。しかし私たちがまだ罪人であった時、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」

<実践:惜しみなく受けているキリストの愛を惜しみなく分け与えましょう! >

*なぜ父なる神が御子イエスキリストをこの世の罪のいけにえとして十字架につけられるよう計画し、御子イエスキリストは最後まで

で十字架につけられるほど従ったのでしょうか。聖書はこのように教えて下さっています。

エレミヤ書31章3節「主は遠くから、私に現われた。永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに誠実を尽くし続けた。」

ヨハネの手紙第一4章9-11節では「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供(そな)え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださいましたのなら、私たちがまた互いに愛し合うべきです。」主の十字架はただ我々を愛しておられた神の愛のためでした！

愛する信仰の家族の皆さん！イエスキリストの十字架は決して偶然ではありません。神様はわざわざご自分の犠牲を計画されたのです。そして自分の十字架になる木を植えさせました。そして自分の手にさし込まれる釘が造られるために鉄工所(てっこうじょ)をこの地において下さいました。イエス様を裏切ったイスカリオテユダでさえ目的をもってある女の胎内で組み立ち、生まれさせました。それだけではありません。ポンテオピラトがエルサレムに転勤されるように政治の組織まで動かした方も神様でした。いくら残酷な犯罪人だとしても生まれる前から、この世の中で一番残酷な死刑で死ぬと定められませんでした。

そんなことをイエスキリストはなぜそうされたのでしょうか。それはたった一つの理由のためでした。私たちのためでした！そして神様が創造されたすべての人類のためにそうされたのです。神なるイエスキリストはいくらでも十字架の苦しみを避けられるお方でしたが(ヨハネの福音書10:17-18)、イエス様はそうしませんでした。苦しみの杯の前で、なやんで死にそうでしたが、イエスキリストはその苦しみの杯を避けませんでした。そうできないからではなく十字架を避けませんでした。

ヨハネの福音書3章16節にはこの世を造られた神様がご自分のひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためであると教えています。

これは神様がイエスキリストの十字架を通して私たちに見せてくださる最高の愛の表現でした。ですからもし今も生きておられる神様が本当に私たちを愛して下さっている証拠が見たいなら主の十字架を見上げてください。主の十字架は神様がどれだけ私たち一人一人を愛して下さったのか、そして今もなお、将来も愛して下さるのが一番よく分かる近道です。

あるクリスチャンの方から“先生。私はイエス様を信じていてもあまり受けた祝福がありません。”と聞いたことがあります。イエス様を信じていると言いますが、イエス様の十字架の贖いの御力によるイエス様をまだ知らない方も知れません。本当にイエス様の十字架の力を知り、信じている人なら、自分がイエス様を信じてどれだけたくさんの祝福を受けたのか、神様がどれだけ自分を愛して下さるのか、知らないはずがありません。私たちは自分たちの生活においてものごとくうまく行く状況を見ながら神様の愛と恵みを判断しようとしています。物事がうまく行くと“神様は自分を愛しているかも”と思い、うまく行かないと、“神様はどうしてこんなに私を苦しくさせるのか。”と反問しながら神様の愛を疑います。

その人はイエスキリストの十字架の力によってイエス様を信じていることではありません。神様の愛は毎回確認すべき項目ではなく、すでに確証(かくしょう)された事実です。さきほど、読んだ御言葉をつかんで信じましょう。

「しかし私たちがまだ罪人であった時、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。(ローマ人への手紙5:8)」いまだ目に見えることをとおしてのみ祝福をはかる人々がいるでしょう。しかし、神様はすでに私たちに最大な祝福(贖いの恵み)を与えてくださり、それがイエス様の十字架の上で確証されたことを信じましょう。

イエス様の十字架の力はそれを信じる人々に神様の愛と恵みに対する確信を与えてくださいます。我々の罪が十字架の上で、完全に赦され処理されたという確信と信仰を与えてくださいます。みなさんは今このすばらしいイエスの贖いの恵みを信じ、味わっていますか。罪を悟ることは神様のたしかな御心であり、神様の御力によるものですが、罪責感に陥り、とらわれて生きることも決して神様の御心ではありません。

十字架は神様の愛を表わす一番の神様の力です。十字架につけられたイエス様は神様のひとり子です。神様は愛しておられるイエス様を我々の罪のかわりに十字架にわたされました。想像もつかないほどのすばらしい愛はすべての人を変える神様の力です。十字架の愛はすべてを受け入れ変える力です。(ローマ8章35節-39節)

十字架で死なれるイエス様でさえ、十字架にかかれる前夜、愛する弟子たちに最後になんと言われましたか。ヨハネの福音書13章34-35節です。「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。私があなたがたをあいしたように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたが私の弟子であることを、すべての人が認めるのです。」イエス様もこの地に来られて、はじめから最後まで見せてくださったことは愛そのものでした。愛はイエスの弟子たちがつけてあるべきのパッチ、つまり生活そのものであるべきです。

今日のメッセージを終わらせます。

イエスキリストの受難を覚え過ごす一週間もう一度、その十字架の罪赦しの恵みを受けましょう。そして十字架の神の愛を受け入れましょう。十字架の力によって罪を悟り、罪赦された人こそ、神の愛を知り経験された者です。コロナで困難な時期を過ごしている我らに今週のイエスキリストの受難週を通して、我らのために、このイエスの十字架の罪を悟らせ、赦す御力と十字架の大きい愛と恵みが我々のクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族の上に豊かに注がれ体験する一週間となりますように、主イエスの御名によって祝福します。アーメン！(No Cross! No Glory！)